

## 筑後南部クリーク地帯におけるい草作の経営的機能について（第1報）

佐藤 吉三郎  
（福岡県立農業試験場）

SATO, K.

On the Role of Rush Culture in Farm Management at Chikugo Area (1)

I. 福岡県筑後川下流の穀倉クリーク地帯においてい草加工は年間約30億円の生産があり、この地帯の農業経済・経営の維持・発展にとって重要な役割を果している。とくに最近①い草生産および加工の生産面における規模拡大（作付面積の増大・1戸当り作付面積の増加・い草作地域の拡がり：1戸当り織機台数の増加・加工地域の拡がり）②技術革新（軟質いから硬質いへの移行・病害虫防除の協業化・もみ乾燥機利用からい草専用乾燥機の試作・泥染の原料配合とその方法の統一・連作技術の開拓と普及：選別機の普及・畳表専用と諸目専用機との利用別織機の分化・仕上機の普及）③流通面における商品規格の統一・問屋の統合・取引方法および条件の変更についての生産者の要求などの動きがみられる。一方原草生産大農と加工専業者への分化ないし向上の動き、原草生産地帯と加工専業地帯への分化がみられる。

このような動きが、福岡県筑後南部クリーク地帯、なかんずく三漕農業の発展過程の中で如何なる意味をもつものであるか、また経営が如何ように対応し如何ように発展（問題の解決）しようとしているか。これを明らかにする試みのための現況調査を報告する。

II. 当然経営の対応形態は経営規模の大、中、小別に異なるものがあるとし、そこにおけるい草生産加工の機能も発展（問題解決に対する）の仕組み、仕方も異なるものがあるであろう。ここに分析の視点を置き、これらの問題を端的に抱えている大川市木室区（加工地帯）と川口区（原草地帯）を素材として究明しようとした。

III. しかしこれを明らかにするためには調査地区の農業内部構造とその変化—とくに農業労働力の移動と流出、さらに農業をとりまく環境とその変化—とくに

木工業の急速な発展とそれともなう労賃の上昇に及んで調査が必要となる。

IV. まず研究の焦点を最小限に絞り、三漕農業の中で、い草およびい草加工が経営の中で如何なる機能をもっているか、またどの程度まで延び得るか。この課題について経営経済的に考察しようと考えた。

これを明らかにするためにはい草および加工の生産のびを規制している要因が労力→労賃と土地→地代とい草および加工製品の価格→農業所得の関係にあると予想されるのでこの関係から問題を解いて行くことを考えている。

V. あとがき

この調査を計画実施するに際し農林省農業総合研究所の場徳造先生並びに松田研究員の意見を参考させていただいた。また大川市の添島市議員・池末惣次郎・坂井松次郎・並に大川市役所農政課長・同係長の諸氏に種々御協力を得たことに対して深く感謝の意を表します。

## 参 考 文 献

1. 大木町い草製品産地診断報告ならびに調査報告書—（昭和38年3月）—福岡県
2. 大川市統計年報
3. い草の経済論理と三漕農業—（1957）—九州経済調査協会
4. 岡山県い草製品生産流通実態調査—（昭和37年）—岡山県特産課
5. い草におけるい草の流通について（1958）—由比浜省吾
6. 特産物の生産目標設定に関する調査研究—（昭和39年）—熊本県農試